

職人の技 5人に **マイスター**

長年の研さん市、16日に認定式

市 川崎市が優れた技術・技能で産業発展に貢献し、後進の育成に熱心な市内在勤の職人に贈る「かわさきマイスター」の本年度の認定者五人が決まった。(小形佳奈)



航空機の部品製造 / 20代で工場設立

井武敏さん(左)はプラント設備仕上▽鈴木克明さん(左二)写真師▽高橋信美さん(左三)はパネ製造▽秦義光さん(左四)は製缶板金技能▽宮永典隆さん(左五)はケール接続技術の五人で、それぞれ四十二年から六十年、技術を磨いてきた。

今回の認定者で最年長の高橋さんは、機械を使わずに手で自在に正確にコイルを巻く技術が評価された。米ボーイング社のジャンボジェット機など航空機の油圧系の部品に採用されているという。「うちのバネが付いたジェット機が世界を飛んでいる。私が作ったから大丈夫と自信を持っている」と胸を張る。

秦さんは、十五歳で福岡県から上京後、渋谷の町工場で技術を磨き、二十代で独立して川崎区内に工場を設けた。二十年ほど前から地方採用を始め、社員寮で自ら台所に立ち朝食を作るなど、若手技能者の育成にも力を入れてきた。「3K(きつい、汚い、危険)と言われ敬遠されたものづくりの喜びを伝えたいと、ここまでやってきた」と語る。

五人の認定式は十六日午後二時から、市立労働会館(川崎区富士見二)で行われる。

本年度のかわさきマイスターに認定される(左から)宮永典隆さん、秦義光さん、高橋信美さん、鈴木克明さんと、井武敏さんの代理人市役所で